

学校施設長寿命化計画について

1. 学校施設長寿命化計画の背景・目的

- 平成25年11月、国土交通省が国内のインフラの老朽化対策を目的として、「インフラ長寿命化基本計画」を策定した。これを受けて、平成27年3月に文部科学省は同省所管のインフラ等に関する長寿命化計画を策定した。
- 国は、これまでの計画等を踏まえ、各自治体において、個別施設の老朽化対策を目的とした計画（長寿命化計画）を策定するよう要請しており、長寿命化計画の策定が、国庫補助金採択の要件とされている。
- そこで、学校施設の建替えや改修など、老朽化対策や施設更新を計画的に進めていくことを目的として「学校施設長寿命化計画」を策定する。
- 対象施設は、区立小学校・中学校・幼稚園とする。
- 国の方針も踏まえ、老朽化対策を加速させるため、従来から計画化している改築に加え、長寿命化改修なども含めた計画とする。

2. これまでの学校改築計画について

(1)	豊島区立小・中学校改築計画 【平成20年度】	統廃合や仮校舎等の条件を踏まえ、平成20年度～平成29年度の10年間の改築校を決定
(2)	豊島区立小・中学校改築計画 第一次改訂【平成25年度】	仮校舎等の条件を踏まえ、巣鴨北中学校以降の2校を改築校として決定 スケジュールの一部変更、池袋本町小中連携校の建設などを決定
(3)	豊島区立小・中学校改築計画の一部変更【平成28年度】	旧校舎のアスベスト処理、震災復興やオリンピックなどを踏まえた改築工期の延長を考慮し、池一小及び千川中の改築計画のスケジュールを変更

3. 学校施設長寿命化計画の策定に向けた取り組み

- 豊島区では、千川中学校を改築した後の具体的な改築校が決定していないため、令和元年度に学校施設長寿命化計画策定委員会（庁内組織）を設置し、令和2年度内の策定を目指していたが、新型コロナウイルス感染拡大による区財政への影響が甚大であることから、公共施設整備事業全体を見直すこととなった。
- 上記を受け、区財政の見通しが不透明な中で、大きな財政負担の生じる学校改築を含めた計画策定は困難であり、また、他の施設建設事業との整合性も考慮し、令和3年度に計画を策定することとした。

4. 令和3年度のスケジュール案

時期	取組等
4月～9月	・学校施設長寿命化計画策定委員会（庁内組織）の開催（3回程度）
9月 （第3回定例会）	・学校施設長寿命化計画案の公表
10月	・パブリックコメントの実施
12月 （第4回定例会）	・パブリックコメントの結果公表、 学校施設長寿命化計画の策定・公表